

関東十ゼミ討論会第4回ゼミ内中間発表

今後の方向性について

柴田大樹 神崎紗蓉子 大内みさと 横内拓幸

1. 今までの問題意識と問題点

従来の問題意識では復刻製品の製品属性および構成概念を明らかにしようとしていた。その際扱う復刻製品は、オリジナル製品の存在する製品が販売再開されたものであった。

しかし従来の概念モデル図(復刻製品の購買意図に関する概念モデル図)の構築を行っていたところ、ノスタルジアが認知段階にも影響を及ぼしていることがわかった。そのため「購買意図」モデルだけでは我々の問題意識のすべてを包括しきれなくなってしまう。この問題を解決すべく構成概念を列举すると、製品カテゴリーや状況の分類があまりにも多様化してしまう。

しかしながら、この従来の問題意識に愛着もある。この問題点を改善すべく、認知に影響しない復刻製品購買の価値をさらに探し出し、この問題意識に取り組むか・・・

2. 新しい問題意識

新しい問題意識では復刻製品の重要な要素である「ノスタルジア」に影響を与えるものはなにか、さらに「ノスタルジア」は態度、確信、意図にいかなる影響を与えるのかについて分析を行う。ノスタルジアが肯定的感情である以上、少なくとも製品購買に正の影響を与えると考えられるので、製品属性のひとつとしてのノスタルジアの規定要因を分析することには大きな意義がある。

その際扱うノスタルジック製品は、オリジナル製品の有無にかかわらず、ノスタルジアを喚起させる製品である。

新しい問題意識における概念モデルの提案

